

探究・校務改革
支援補助金
2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 エル・インターフェース

【サービス名称】

カレパス探究／カレパスGlobal

【サービスの支援項目】

カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス

2026年1月

 College
Pathway
カレッジパスウェイ



■ 探究・校務改革支援サービスの概要

I. サービスの概要、特徴

カテゴリ-I 探究的な学びの高度化 メインサービス

カレパス 探究



「カレパス探究」は、新聞記事を教材に、興味の発見から課題設定、調査、考察、発表までの探究プロセスを段階的に学べるオンライン教材です。

本教材を活用することで、生徒は社会の出来事を自分ごととして捉え、自ら問いを立て、情報を根拠に考える姿勢を育むことができます。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等 過去1年分の厳選された新聞記事で課題 を発見・設定

カレパス探究は、新聞記事を通じて政治・経済・環境・文化・国際情勢など多様なテーマに出会えるよう設計されています。

多様な記事に触れることで、普段では出会いにくいテーマにも自然に出会い、探究テーマ検討の“入口”をつくりやすくなります。

興味や問題意識が明確でない生徒でも、「知らなかったことを知る」「意外な事実で驚く」といった小さな“気づき”から探究を始められる点が大きな特徴です。

(2) 学習に関連する効果 設問(アンケート)に答えて探究活動の基 礎を段階的に身に着ける

新聞記事を起点に、生徒が興味の発見から問いの設定、調査・考察へと進む流れを、設問(アンケート)に沿って段階的に取り組める構成になっています。

課題設定が難しい生徒や調査経験の少ない生徒にとっても、「どのステップで何をすればよいか」が明確に示されている点は大きなメリットです。

(3) サービスの活用場面

カレパス探究は、本格的な探究活動に入る前段階としてのトレーニング教材です。

探究のテーマ設定に迷う生徒や、興味・関心を言語化することが難しい生徒でも、アンケート形式で思考を整理しながら進められます。

Teacher's Manualにより、授業設計・進行の準備もしやすくなります。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

1名 26,400円/年(税込み価格)

サーバークラウド運用費、教材ライセンス費、システム開発費、システム運用人件費、その他外部パッケージライセンス費を含みます。

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス

カレパス
Global



カレパスGlobalは、英語学習（カレパスENGLISH）と海外進学支援（カレパスNAVI）を一体化したサービスです。カレパスENGLISH内での生徒の英語力と高校の成績（GPA）をもとに、進学可能な海外大学を提示し、進路指導を支援します。

導入により、海外大学進学に関する進路指導に必要な情報を、学校内で扱いやすい形で整理・確認できる環境を整備できます。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等 海外大学の入学要件等を日本語で検索・確認

進路の選択肢が多様化する中で、海外大学の進路指導という新たな課題が生まれています。

カレパスGlobalは、日本の中高生が大学検索で慣れ親しんだインターフェースで、海外大学・学部を日本の大学を検索するように簡単に検索できます。

(2) 業務効率化・利便性等に関連する効果 Teacher Modeで生徒の成績や希望に基づいた合格可能性の高い大学を提示

生徒の英語力と高校の成績（GPA）をもとに、合格可能性のある海外大学を提示します。

これにより、要件の確認や候補校の比較に必要な情報を整理・確認でき、進路指導の準備や判断に要する負担の軽減が期待されます。

(3) サービスの活用場面

進路面談や三者面談、候補校の比較検討、出願要件の確認など、海外進学に関して「調べる・整理する・説明する」場面で活用できます。

英語力の状況も踏まえながら、学校内で同じ見立て・説明方針を共有しやすくなる点も特徴です。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

1名 26,400円/年（税込み価格）

サーバークラウド運用費、教材ライセンス費、システム開発費、システム運用人件費、その他外部パッケージライセンス費を含みます。

2. サポート内容（カレパス探究・カレパスGlobal共通）

- ① サポート窓口の設置：質問や相談に迅速に対応できる専用窓口を設置
- ② 定期的なデータ提供：生徒の学習進捗や利用状況を分析し、レポートを提供
- ③ アップデート対応：学校からの要望を反映し、システムの改善・拡充を継続的に実施
- ④ コミュニティの形成：導入校同士の情報共有を促進し、活用事例の共有や勉強会を開催

【カレパス探究】生徒が探究活動の始め方や進め方をイメージしにくいという課題に対し、新聞記事を起点に探究プロセスを段階的に示すことで、主体的な探究学習を支える。

【カレパスGlobal】短時間学習の準備や海外大学進学に関する進路指導に負担がかかるという課題に対し、教材配信と進路情報の整理を通じて、教員の業務効率化と生徒への学習・進路支援を両立する。

児童生徒・教職員が抱える課題

【カレパス探究】

- ① 生徒が社会の多様な話題に触れる機会が限られ、興味・関心の幅を自ら広げにくい
- ② 興味や問題意識が明確でない生徒にとって、探究活動をどこから始めればよいか分かりにくい
- ③ 探究に必要な一連のプロセスを、段階的に学ぶ機会を設けることが難しい場合がある

【カレパスGlobal】

- ① 朝学習や宿題、ミニテスト等の短時間学習の準備に多くの時間と労力がかかる
- ② 進路の選択肢が多様化し、海外大学進学に関する情報収集・整理の負担が大きい
- ③ 海外大学進学では国内大学のような模試等の共通指標が整っていない場面もあり、見立てや説明を含む進路指導に負担がかかる

サービスが果たす役割

【カレパス探究】

- ① 新聞記事を教材として活用することで、政治・経済・環境・文化・国際情勢など社会の多様なテーマに触れる機会を提供し、生徒が自らの興味・関心を広げるきっかけをつくる
- ② 記事を読む中で生まれる「気づき」「疑問」を出発点にできるため、興味や問題意識が明確でない生徒でも探究を始めやすい学習環境を整える
- ③ 設問(アンケート)に沿って進めることで、興味の発見→課題設定→調査→考察→発表までの探究プロセスを段階的に身につけられる構造を提供する

【カレパスGlobal】

- ① 搭載コンテンツを活用し、ホームワークやミニテストを簡単に作成・配信できる環境を提供することで、短時間学習の準備にかかる教員の負担を軽減する
- ② 海外大学の入学要件や学費等を日本語で整理し、生徒・教員の情報収集を容易にする
- ③ 生徒の英語力・成績・希望条件に基づき、合格可能性のある大学を提示し、進路指導の効率化と質の均一化に寄与する

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

【カレパス探究】

Step1: 多様な記事に触れ、興味の幅を広げる

カレパス探究内の多様な新聞記事を読み、政治・経済・環境・文化・国際情勢など、普段触れる機会の少ない社会の話題に触れた。

これにより、生徒が社会の多様な話題に触れる機会が限られ、興味・関心の幅を自ら広げにくいという課題の解消につながった。

Step2: アンケートを通じて、探究の出発点を見つける

記事を読んだ後、アンケート形式で「気になった点」「疑問に思ったこと」を書き出した。興味や問題意識が明確でない生徒でも、探究活動をどこから始めればよいか分かりにくいという課題に対して、無理なく探究を始められるようになった。

Step3: 段階的に探究プロセスを経験する

アンケートを活用し、興味の言語化、問いの設定、調査内容の整理、考察、振り返りといった探究の各段階を順に経験した。

これにより、探究に必要な一連のプロセスを段階的に学ぶ機会を、授業の中で確保することができた。



【カレパスGlobal】

Step1: 生徒がEATを受験し、英語力を可視化する

生徒は、カレパスGlobal上でEAT（英語共通試験）を受験し、自身の英語力をグローバル基準の数値（スコア）として把握することができるようになった。

Step2: 生徒が成績を入力し、GPAを算出する

生徒がこれまでの成績を入力すると、GPA自動算出機能により、海外大学の入学に必要なGPAを把握できるようになった。

Step3: 教員がTeacher Modeで進路情報と合格可能性を確認する

教員は、Teacher Modeを用いて、生徒のEATスコアやGPAをもとに、海外大学の合格可能性を客観的に把握できるようになった。

これにより、教員ごとの情報収集や判断のばらつきを抑え、進路指導の質を一定水準で担保しつつ、進路指導にかかる業務負担の軽減につながった。

■ 探究・校務改革支援補助金における導入実証実績

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数

6

学校等教育機関数

8校

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	茨城県教育委員会	茨城県立水戸第一高等学校	茨城県	高等学校	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）
2	学校法人聖マリアの無原罪学園	聖マリア女学院高等学校	岐阜県	高等学校	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）
3	学校法人聖マリアの無原罪学園	聖マリア女学院中学校	岐阜県	中学校	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）
4	学校法人天王寺学館	関西外語専門学校国際高等課程	大阪府	高等専修	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）、総合的な探究の時間
5	学校法人セントヨゼフ女子学園	セントヨゼフ女子学園高等学校	三重県	高等学校	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）
6	学校法人北星学園	北星学園女子高等学校	北海道	高等学校	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）
7	学校法人北星学園	北星学園女子中学校	北海道	中学校	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）
8	学校法人横浜清風学園	横浜清風高等学校	神奈川県	高等学校	1,2,3	授業準備、生徒指導（個別）、総合的な探究の時間



定量的効果検証

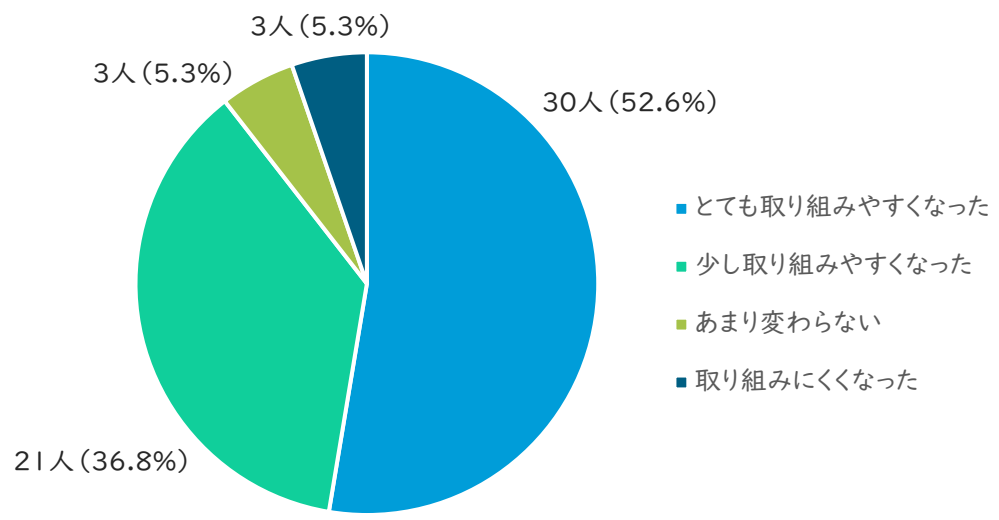
【児童・生徒の探究学習】「カレパス探究」活用による成果

生徒アンケートでは、探究導入時の“取り組みやすさ”に関して肯定的回答が多く確認され、特に「とても取り組みやすくなった」が52.6%と過半数を占めた。あわせて「少し取り組みやすくなった」も含めると、89.4%が肯定的に回答しており、初期段階でのテーマ検討を進めやすくする効果が確認された。

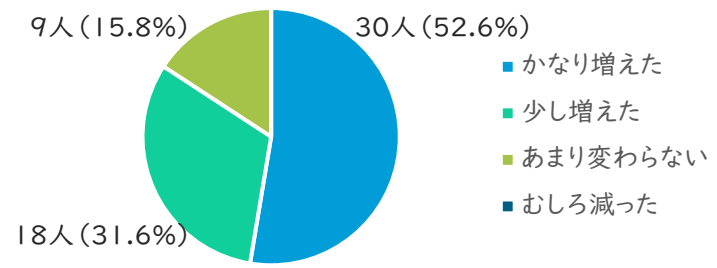
また、「テーマ候補が増えた」（かなり+少し）84.2%、「関心の方向性をつかめた」（はっきり+少し）78.9%という回答結果となり、テーマの具体化や関心の整理が進んだことが示された。

Q.探究のテーマを探すことは、どのくらい取り組みやすくなりましたか？

(57件の回答)

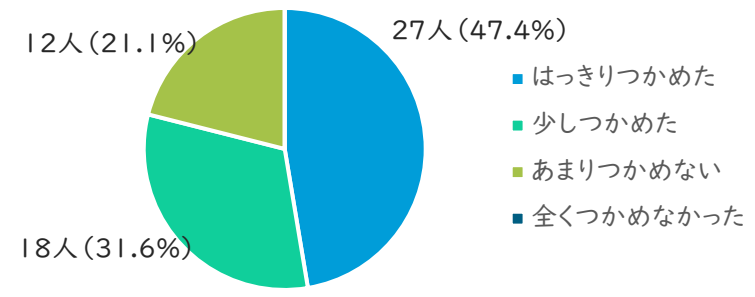


Q.探究のテーマとして考えられる候補は増えましたか？ (57件の回答)



Q.自分がどんなテーマに興味がありそうか、方向性をつかみやすくなりましたか？

(57件の回答)



定性的効果検証

【児童・生徒の探究学習】「カレパス探究」活用による成果

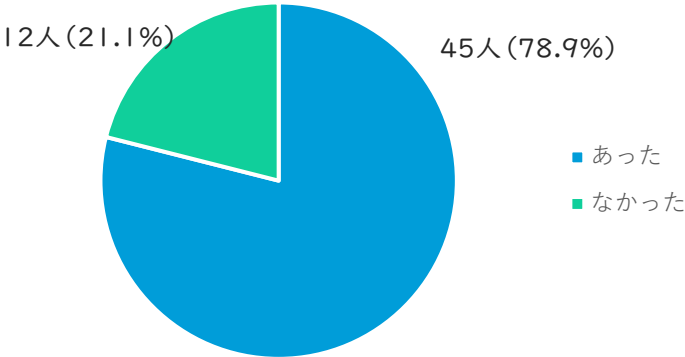
生徒アンケートでは、新聞記事を通じて新しく興味を持った分野があったと多くの生徒が回答した。

普段は触れる機会の少ない社会・国際・環境などの話題に出会うことで、新たな気づき生まれ、探究テーマを考える際のきっかけになったことがうかがえる。

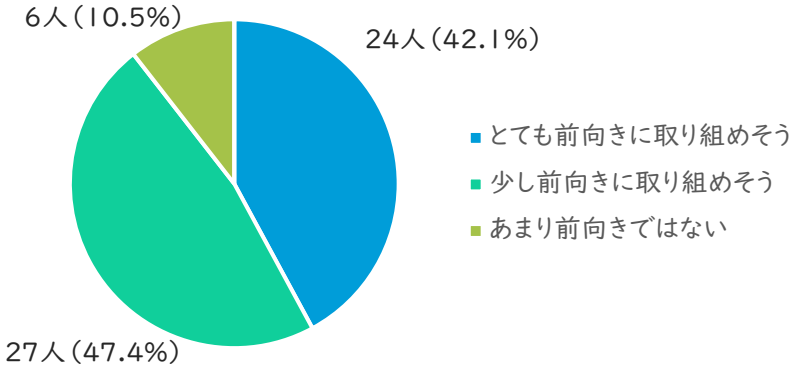
また、カレパス探究では、事前に用意されているアンケートに回答していくことで、興味の言語化から問いの設定、調査、考察までの流れが段階的に示されているため、生徒にとって「次に何をすればよいか」が分かりやすい構成となっている。

多くの生徒が、「今後、探究活動に前向きに取り組める」と答えており、探究活動の進め方に迷いや不安を感じやすい生徒でも、一つずつ取り組めるという安心感につながり、探究への第一歩を踏み出しやすくなったと考えられる。

Q.記事を通じて、新しく興味を持った分野はありましたか？
(57件の回答)



Q.今後、探究活動にどのくらい前向きに取り組めそうですか？
(57件の回答)





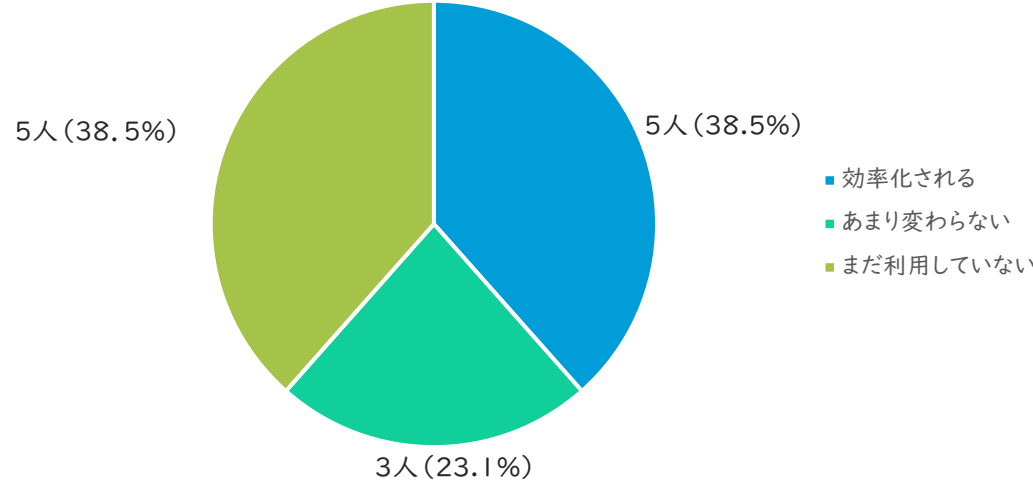
定量的効果検証

【教職員の業務効率化・省力化】「カリパスGlobal」活用による成果

本事業では、実証校において主に進路指導（Teacher Mode）を中心に活用し、海外大学進学に関する進路指導の効率化に向けた環境整備を行った。教員アンケートの結果から、海外大学の情報整理や大学探しについて、Teacher Mode の活用により、一定の業務効率化が見込まれるとの回答が得られた。海外大学進学の相談件数がまだ多くない段階においても、進路指導に必要な情報を一元的に確認できる体制を整えることで、今後の情報収集や判断にかかる負担の軽減につながることを期待される。なお、未使用の回答も見られたため、活用定着に向けた利用機会の確保・周知を継続する。

Q.海外大学の情報整理や大学探しは、「Teacher Mode」でどれくらい効率化されると思いますか？

(13件の回答)



※ 海外大学進学の相談件数が多くない段階における、進路指導業務の効率化に関する教員の見通し（アンケート結果）
※「効率化される」は「2倍以上（2名）／1.5倍程度（2名）／1.1倍程度（1名）」を合算
※「あまり変わらない」回答（3名）のうち2名は、Teacher Mode 未使用



定性的効果検証

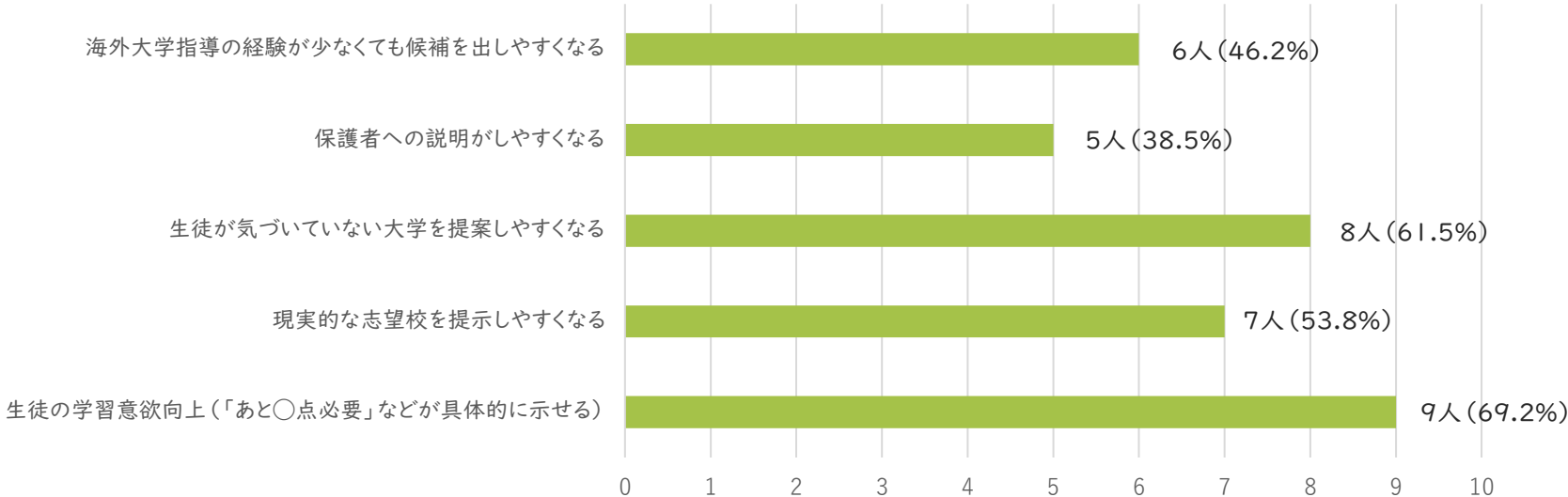
【教職員の業務効率化・省力化】「カレパスGlobal」活用による成果

教員アンケートでは、海外大学の進路指導に関して「入学要件が複雑で難しい」「保護者への説明が難しい」「大学の情報収集・比較に時間がかかる」といった不安・課題が挙げられた。これらの課題に対し、Teacher Mode のEATスコア変化機能(+5/+10/+15)については、面談・指導の場面で「あと〇点必要」など学習目標を具体化して示すという回答が最も多く、入学要件の見通しや必要条件を生徒に説明する際の補助になり得ることが示された。

また、「生徒が気づいていない大学を提案しやすくなる」、「現実的な志望校を提示しやすくなる」といった回答も多く見られ、大学の情報収集が容易になることで学校比較や候補校の検討を進める際の負担軽減につながる可能性が示唆された。さらに、「海外大学指導の経験が少なくても進路候補を出しやすくなる」、「保護者への説明がしやすくなる」も一定数の回答があり、経験差の補完や説明負担の軽減を支援する可能性が示唆された。

Q. EATスコアの変化機能(+5/+10/+15)は、指導や面談にどのように活用できそうですか？(複数回答可)

(13件の回答)





教員

- ワークシートが記事の理解に大変役立ちました。
- ワークシートと紐づいているので、記事を読む動機づけになっていました。また、時事に興味のあった生徒は、新聞記事の読み方や情報の得方がわかり、良い影響があった様子でした。本校はiPadで活動しましたが、新聞記事の拡大が難しく、読みづらい仕様のようにです。
- はじめは、カレパス探究を使った授業の進め方に戸惑いましたが、Teacher's Manual があったことで、授業の流れをイメージできました。
- 記事の選択肢が豊富で、「この生徒がこんな分野に興味を持つんだ」と意外な発見がありました。

生徒

- インパクトのあるタイトルに興味を持った。
- 身近な話題でも知らないことがあってびっくりした。
- たくさんある中から自分の好きな記事を選べるのが良かった。



教員

- 新しい進路の選択肢を生徒に見せる機会ができました。
- 大学検索・英語試験受験・合否判定・出願が一体的に管理でき、非常に便利なシステムだと思います。
- 進路、国際部、担任の海外大への進学志望の生徒の指導にとっても役に立つと感じました。海外大学の種類や情報収集に役立つと同時にそれぞれの国や地域のプロセスや大学の種類についての教育、周知をどう生徒、保護者に伝えていくかが課題だと感じました。
- EATのスコア変化機能を使うと、たとえば高3でGPAは基準を満たしている一方で英語力が不足している生徒に対して、目標達成に必要な学習時間の目安を具体的に示しながら進路指導ができると感じました。そうした見通しを示すことで、生徒が諦めずに目標に向けて学習を続けられるよう促せると思います。
- 生徒自身がカレパスNAVIやEATを利用することで、自分自身でキャリアプランを作れると感じました。

カレパスGlobal・カレパス探究ともに有用性は確認された一方、導入初期の周知や活用手順の整備が十分でなく、利用が進みにくい場面があった。今後は、役割別・活用場面別の案内を強化するとともに、マニュアルやクイックガイド等の運用資料を充実させ、利用機会を運用の中に組み込むことで定着を図る。

直面した課題

【カレパスGlobal】

カレパスGlobal (Teacher Mode) を活用して海外大学進学に関する進路指導の効率化を図ったが、導入初期における教員への周知・利用促進が十分ではなく、活用状況にばらつきが生じた。

特に、進路指導の中で「どの場面で、何を目的に使うか」(例: 候補校の提示、要件確認、面談準備など)の具体的な利用イメージが、役割や担当に応じて明確に伝わり切らず、未試用の回答も一定数見られた。

また、初回利用にあたっての導線(ログインから機能理解まで)や、短時間で価値を実感できる体験設計が弱く、「使ってみるきっかけ」を作りにくかった点も課題である。

【カレパス探究】

カレパス探究は、導入当初、授業内でどのように進めればよいかを具体的に示すマニュアルや運用イメージの整備が十分ではなく、教員側で活用の手順を描きにくい状況があった。

その結果、「何をどの順で実施するか」「どこまでを授業で扱うか」が共有されにくく、利用が進みにくい要因となった。

解決するための改善策

【カレパスGlobal】

今後は、Teacher Modeの活用定着に向けて、周知を「対象(誰に)×場面(いつ)×目的(何のために)」で整理し、教員が自分の業務に置き換えて理解できる形で情報提供を行う。

具体的には、面談前・進路イベント前などのタイミングに合わせて、Teacher Modeで確認すべき項目を提示し、進路指導の運用の中に利用機会を組み込むことで、試用のハードルを下げる。

あわせて、初回利用者向けに、短時間で主要機能(候補校の提示、入学要件の見通し、説明に使える情報の整理等)を一連で体験できるクイックガイドを整備し、導入時の説明と実施後のフォローをセットで実施することで、継続利用につなげる。

【カレパス探究】

Teacher's Manual を用意したことで、授業の流れを事前にイメージしやすくなり、実際の活用が進んだ。

今後はこの効果を踏まえ、Teacher's Manual の内容をさらに充実させるとともに、授業の実施パターン(例: 1コマ完結/複数回で実施/宿題併用など)や準備物・声かけ例・つまづきやすい点への対応例を整理し、導入から定着までを支える運用資料として継続的に整備していく。

■ 会社概要

社名	株式会社エル・インターフェース
代表	高橋 新悟
設立年月	2001年6月
本社	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-18-20 代々木フォレストビル
資本金等	4,950万円
売上高等	非公開
従業員数	12人
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育機関(中学・高等学校・大学)向け 学習・進路支援サービスの提供 ■ 語学学習教材(eラーニング)の企画・制作 ■ オンラインテスト/学習・進路支援Webシステムの開発 ■ Webシステムの運用・保守 ■ ソフトウェア受託開発 ■ 導入実績:教育機関100校以上 <p>スーパー英語.com: https://www.supereigo.com/ UPAA: https://upaa.jp/</p>

■ お問い合わせ窓口

担当: Business Development

電話: 03-5312-6101

Mail: academic@supereigo.com

■ 中学・高等学校向けサービスのご案内



「世界に通用する人材」の育成をサポート

 英語eラーニング	 世界基準の英語力を測定	 探究学習の基礎力を向上
 国内受験と海外出願を両立	 海外大学検索・AI合否判定	 海外大学オンライン出願